

(3) 発症年齢

発症年齢は、訪問看護ステーション群で28.3歳 (SD=12.2)、訪問看護病院群で27.6歳 (SD=10.1)、外来群で26.3歳 (SD=12.5) であった。ステーション群と病院群の平均年齢に統計的な有意差は見られなかった。

	訪問看護 ステーション群(n=42)	訪問看護 病院群(n=76)	外来群 (n=9)
発症平均年齢(歳)	28.3	27.6	26.3
標準偏差(SD)	12.2	10.1	12.6

※訪問看護ステーション群と訪問看護病院群との比較 t=0.321

(4) 婚姻状況

婚姻状況は、訪問看護ステーション群、病院群、外来群ともに未婚の人が60-70%を占めていた。また、離別・死別の人は20-30%であった。

	訪問看護 ステーション群(n=42)	訪問看護 病院群(n=76)	外来群 (n=9)
婚姻	2(4.8%)	9(11.8%)	0(0%)
未婚	29(69.0%)	47(61.8%)	6(66.7%)
離別・死別	11(26.8%)	20(26.3%)	3(33.3%)

$\chi^2=2.785$

(5) 診断

今回の対象者は統合失調症または躁うつ病と限定していたが、対象者の約90%が統合失調症の診断の方であった。

	訪問看護 ステーション群(n=42)	訪問看護 病院群(n=76)	外来群 (n=9)
統合失調症	38(90.5%)	67(88.2%)	8(88.9%)
躁うつ病	4(9.5%)	9(11.8%)	1(11.1%)

$\chi^2=0.148$

(6) 合併症

訪問看護ステーション群では、訪問看護病院群に比べて合併症をもつ人の割合が高く、約半数の利用者が合併症を有していた。そのうち肥満を有する人の割合は半数以上を占めており、メタボリックシンドロームの問題を抱える利用者の多いことが伺えた。外来群では、対象者数が少ないが、何らかの合併症を有している人の割合が77.8%と多かった。

	訪問看護 ステーション群(n=42)	訪問看護 病院群(n=76)	外来群 (n=9)
合併症あり	19(45.2%)	21(27.6%)	7(77.8%)
身体合併症あり(肥満を 除く)	10(23.8%)	14(18.4%)	7(77.8%)
糖尿病	7(16.7%)	6(7.9%)	0(0.0%)
肥満	11(26.2%)	9(11.8%)	1(11.1%)
その他	3(7.1%) 甲状腺機能亢進症 リウマチなど	10(13.2%) 不整脈 高血圧 緑内障・白内障 肺気腫など	7(77.8%) 高脂血症 肝炎 高血圧など

$$\chi^2=17.34***$$

(7) 居住形態

居住形態は、独居の人が、訪問看護ステーション群で54.8%、病院群で53.3%、外来群で33.3%であった。同居者のある人は、訪問看護ステーション群で42.9%、病院群で40.0%、外来群で66.7%と外来群で同居の割合が高い傾向が見られた。

	訪問看護 ステーション群(n=42)	訪問看護 病院群(n=75)	外来群 (n=9)
独居	23(54.8%)	40(53.3%)	3(33.3%)
同居者あり	18(42.9%)	30(40.0%)	6(66.7%)
その他	1(2.4%)	5(6.7%)	0(0.0%)

$$\chi^2=3.515$$

(8)過去の入院状況

過去の入院回数は、訪問看護ステーション群で5.3回 (SD=5.0)、訪問看護病院群で6.5回 (SD=5.1)、外来群で5.6回 (SD=4.7)であった。過去の入院日数は、訪問看護ステーション群で1265.0日 (SD=2377.5)、訪問看護病院群で1403.8日 (SD=1893.9)、外来群で542.1日 (SD=550.6)であり、外来群で少なかった。

	訪問看護 ステーション群 (n=42)		訪問看護 病院群 (n=75)		外来群 (n=9)	
	平均値	SD	平均値	SD	平均値	SD
過去の入院回数(回)	5.3	5.0	6.5	5.1	5.6	4.7
過去の入院日数(日)	1265.0	2377.5	1403.8	1893.9	542.1	550.6
過去5年間の入院回数(回)	2.3	1.5	2.6	1.7	2.2	1.6
過去5年間の入院日数(日)	256.2	226.6	359.6	316.8	297.8	171.7
過去1年間の入院回数(回)	1.2	0.5	1.2	0.5	1.0	0.0
過去1年間の入院日数(日)	90.4	56.2	65.8	51.2	97.6	20.7

(9)現在の通院状況

(9)-1 月あたり通院回数

月あたりの通院回数は、訪問看護ステーション群で2.9回、病院群で2.9回、外来群で1.7回であった。

	訪問看護 ステーション群 (n=41)	訪問看護 病院群 (n=75)	外来群 (n=9)
月あたり通院回数(回)	2.9	2.9	1.7
標準偏差 (SD)	3.0	3.4	0.4

(9)-2 自立支援医療の利用

自立支援医療の利用者の割合は、訪問看護ステーション群で95.2%、病院群で94.3%、外来群で66.7%と、訪問看護群で統計的に有意に高かった。

	訪問看護 ステーション群 (n=42)	訪問看護 病院群 (n=70)	外来群 (n=9)
自立支援医療の利用あり	40(95.2%)	66(94.3%)	6(66.7%)
自立支援医療の利用なし	2(4.8%)	4(5.7%)	3(33.3%)

$$\chi^2=9.505^{**}$$

(10) 今回の訪問看護利用月数

今回の訪問看護の利用月数は、訪問看護ステーションで9.9ヶ月、病院群で8.5ヶ月であった。

	訪問看護ステーション群(n=41)	訪問看護病院群(n=75)
平均利用月数(ヶ月)	9.9	8.5
標準偏差(SD)	20.6	16.3

t=0.416

(11) 自立支援法による障害認定

自立支援法による障害認定の状況については、訪問看護ステーション群で58.2%、病院群で52.1%、外来群で55.6%であった。

	訪問看護ステーション群(n=31)	訪問看護病院群(n=71)	外来群(n=9)
障害認定あり	18(58.1%)	37(52.1%)	5(55.6%)
障害認定なし	13(41.9%)	34(47.9%)	4(44.4%)

$\chi^2=0.317$

(12) 精神科訪問看護の利用経験

以前の精神科訪問看護利用経験は、訪問看護ステーション群で24.4%、病院群で39.5%であり、平均利用月数は、病院群で統計的に有意に長かった。

	訪問看護ステーション群(n=41)	訪問看護病院群(n=76)
利用経験あり	10(24.4%)	30(39.5%)
利用経験なし	31(75.6%)	46(60.5%)
平均利用月数(ヶ月)	25.2	58.7
標準偏差(SD)	23.3	48.4

$\chi^2=2.693$ 、 $t=2.876^*$

(13) 精神障害者保健福祉手帳、障害年金の受給

精神障害者保健福祉手帳を持っている人は、訪問看護ステーション群で23名(54.8%)、病院群で54名(72.0%)、外来群で4名(44.4%)であった。どの群でも、2級の割合が多かった。

	訪問看護ステーション群(n=23)	訪問看護病院群(n=54)	外来群(n=4)
1級	1(4.3%)	12(22.2%)	1(25.0%)
2級	19(82.6%)	40(74.1%)	3(75.0%)
3級	3(13.0%)	2(3.7%)	0(0.0%)

$\chi^2=5.820$

障害年金の受給割合は、訪問看護ステーション群で52.5%、病院群で67.1%、外来群で66.7%であった。

	訪問看護ステーション群(n=40)	訪問看護病院群(n=73)	外来群(n=9)
受給あり	21(52.5%)	49(67.1%)	6(66.7%)
受給なし	19(47.5%)	24(32.9%)	3(33.3%)

$\chi^2=2.432$

(14) 過去・現在の就労状況

過去・現在において就労のあった人の割合は、訪問看護ステーション群で68.3%、病院群で59.2%、外来群で66.7%であった。

	訪問看護ステーション群(n=41)	訪問看護病院群(n=76)	外来群(n=9)
過去・現在の就労あり	28(68.3%)	45(59.2%)	6(66.7%)
過去1ヶ月の就労のあり	1(3.4%)	3(7.0%)	1(16.7%)
過去6ヶ月の保護的就労あり	3(7.1%)	14(18.9%)	1(11.1%)

$\chi^2=1.005$

(15) 利用している社会資源

利用している社会資源の状況は、デイケア、デイナイトケアがもっとも多く、訪問看護ステーション群で40.5%、病院群で34.2%、外来群で22.2%であった。ついで、ホームヘルプサービスの利用が、訪問看護ステーション群で26.2%、病院群で18.4%であった。作業所など日中の活動の場の利用は、訪問看護ステーション群で11.9%、病院群で22.4%であった。

		訪問看護 ステーション群 (n=42)	訪問看護 病院群 (n=76)	外来群 (n=9)
デイケア、デイナイトケ ア	利用者数(%)	17(40.5%)	26(34.2%)	2(22.2%)
	週平均日数(SD)	2.4(1.7)	3.1(1.4)	1.8(1.8)
グループホームなどの 共同住居での援助	利用者数(%)	0(0.0%)	6(7.9%)	0(0.0%)
短期入所施設の利用	利用者数(%)	0(0.0%)	2(2.6%)	0(0.0%)
作業所など日中の活動 の場	利用者数(%)	5(11.9%)	17(22.4%)	0(0.0%)
	週平均日数(SD)	1.8(0.8)	3.0(1.6)	—
地域生活支援センター など集う場	利用者数(%)	5(11.9%)	4(5.3%)	2(22.2%)
	週平均日数(SD)	2.1(2.3)	3.2(3.0)	2.3(0.4)
相談支援事業など相談 機関	利用者数(%)	1(2.4%)	0(0.0%)	0(0.0%)
	週平均日数(SD)	1(0.0)	—	—
就労支援	利用者数(%)	0(0.0%)	1(1.3%)	0(0.0%)
ホームヘルプサービス	利用者数(%)	11(26.2%)	14(18.4%)	0(0.0%)
	週平均日数(SD)	1.5(0.7)	2.5(1.9)	—
その他	利用者数(%)	4(9.5%)	4(5.3%)	0(0.0%)
	週平均日数(SD)	2.6(3.0)	2.5(1.9)	—

(16) 訪問看護の状況

(16)-1 訪問先

訪問先は自宅がほとんどであった。病院群では7.9%がグループホームへの訪問を行っていた。

	訪問看護ステーション群 (n=41)	訪問看護病院群 (n=76)
自宅	40 (97.6%)	70 (92.1%)
グループホーム	0 (0.0%)	6 (7.9%)
その他	1 (2.4%)	0 (0.0%)

(16)-2 訪問手段

訪問手段は両群ともに車が多く、70-80%を占めていた。片道の所要時間は約20分であり、訪問手段や片道所要時間には差は見られなかった。

		訪問看護ステーション群 (n=42)	訪問看護病院群 (n=76)
車	利用者数(%)	33 (78.6%)	54 (71.1%)
	片道訪問分数(SD)	21.5 (14.7)	21.1 (11.4)
自転車	利用者数(%)	4 (9.5%)	18 (23.7%)
	片道訪問分数(SD)	8.5 (5.1)	9.5 (5.8)
公共交通機関	利用者数(%)	0 (0.0%)	2 (2.6%)
	片道訪問分数(SD)	—	32.5 (3.5)
その他	利用者数(%)	5 (11.9%)	2 (2.6%)
	片道訪問分数(SD)	15.6 (10.2)	2.0 (0.0)

(16)-3 滞在時間

訪問滞在時間は、訪問看護ステーション群で51.9分、病院群で41.1分であり、訪問看護ステーション群が統計的に有意に長かった。

	訪問看護ステーション群 (n=42)	訪問看護病院群 (n=76)
平均滞在時間 (分)	51.9	41.1
標準偏差 (SD)	13.4	14.2

t=4.032***

(16)-4 訪問頻度

訪問頻度は、訪問看護ステーション群で月4.7回、病院群で3.2回であった。訪問看護ステーション群では週1回以上の頻度で訪問しており、病院群に比べて統計的に有意に頻度が高かった。

	訪問看護ステーション群 (n=42)	訪問看護病院群 (n=76)
平均訪問回数 (回)	4.7	3.2
標準偏差 (SD)	2.7	2.0

t=3.241**

(16)-5 同行訪問者

同行訪問者は、訪問看護ステーション群で2.4%、病院群で60.5%であり、病院群で統計的に有意に多かった。内訳は、看護職35.5%、PSW31.6%、OT10.5%であった。

	訪問看護ステーション群 (n=42)	訪問看護病院群 (n=76)
同行訪問者あり	1 (2.4%)	46 (60.5%)
看護職	0 (0.0%)	27 (35.5%)
PSW	0 (0.0%)	24 (31.6%)
OT・PT	1 (2.4%)	8 (10.5%)
その他	0 (0.0%)	0 (0.0%)

$$\chi^2=38.161^{***}$$

(17) GAF、SBS得点

GAF (Global Assessment of Functioning) は、

GAF得点は、訪問看護ステーション群で58.5点、病院群で67.6点であり、外来群で58.0点であった。訪問看護ステーション群と病院群では、病院群の方が統計的に有意に高かった。

	訪問看護ステーション群 (n=41)	訪問看護病院群 (n=76)	外来群 (n=9)
GAF平均得点 (点)	58.5	67.6	58.0
標準偏差 (SD)	16.3	13.4	19.5

※訪問看護ステーション群と訪問看護病院群との比較 $t=3.276^{**}$

SBS得点は、訪問看護ステーション群で10.7点、病院群で7.2点であり、外来群で17.3点であった。訪問看護ステーション群と病院群では、病院群の方が統計的に有意に低かった。

	訪問看護ステーション群 (n=41)	訪問看護病院群 (n=76)	外来群 (n=9)
SBS平均得点 (SD)	10.7 (8.2)	7.2 (8.0)	17.3 (15.2)
下位尺度			
SBS社会的引きこもり	3.7 (3.2)	2.2 (2.6)	6.0 (4.4)
SBS陽性症状に伴う行動	2.6 (3.0)	1.6 (2.7)	4.2 (5.3)
SBS気分と行動の不安定さ	2.1 (2.2)	1.9 (2.0)	1.9 (2.0)
SBS迷惑行為および反社会的な行動	1.5 (2.1)	0.9 (1.8)	3.3 (3.2)

※訪問看護ステーション群と訪問看護病院群との比較 総得点 ($t=2.254^*$)、社会的引きこもり ($t=2.604^*$)、陽性症状に伴う行動 ($t=1.860$)、気分と行動の不安定さ ($t=0.430$)、迷惑および反社会的行動 ($t=1.850$)

(18) 処方内容のCPZ換算値

CPZ換算値は、訪問看護ステーション群で693.1mg、病院群で538.4mgであり、外来群で612.0mgであった。

	訪問看護ステーション群 (n=41)	訪問看護病院群 (n=76)	外来群 (n=9)
CPZ換算値	693.1	538.4	612.0
標準偏差 (SD)	562.8	416.0	389.9

※訪問看護ステーション群と訪問看護病院群との比較 $t=1.64$

3) 訪問看護ケアの実態

訪問看護群108名（うち、訪問看護ステーション利用者42名、病院訪問看護利用者76名）について、1ヶ月間の全訪問におけるケア内容を、訪問看護師に記入してもらった。1ヶ月間の訪問回数は1回～14回であった。ケア内容の概要を以下に示す。

(1) 1ヶ月間における全訪問回数・総滞在時間

全訪問回数の平均は、訪問看護ステーション群で4.6回、訪問看護病院群で2.7回であり、訪問看護ステーションで統計的に有意に多かった。訪問看護ステーション群では、週1回の頻度で訪問している人の割合が40.5%と多かった。一方、病院群では月1-3回の訪問の人が多かった。

訪問回数

	訪問看護ステーション群 (n=42)	訪問看護病院群 (n=76)
平均訪問回数(回) (SD)	4.6 (3.0)	2.7 (1.7)
月1回	1(2.4%)	23(30.3%)
月2回	6(14.3%)	12(15.8%)
月3回	7(16.7%)	20(26.3%)
月4回	17(40.5%)	15(19.7%)
月5回	5(11.9%)	2(2.6%)
月6回	0(0.0%)	3(3.9%)
月7回	1(2.4%)	0(0.0%)
月8回	1(2.4%)	0(0.0%)
月9回	0(0.0%)	0(0.0%)
月10回	1(2.4%)	0(0.0%)
月11回	0(0.0%)	1(1.3%)
月12回	0(0.0%)	0(0.0%)
月13回	1(2.4%)	0(0.0%)
月14回	2(4.8%)	0(0.0%)

$\chi^2=32.76^{**}$

1ヶ月間の総滞在時間では、訪問回数の多さに比例して総滞在時間が長くなっていった。訪問看護ステーション群で221.0分、訪問看護病院群で117.3分であった。

総滞在時間

	訪問看護ステーション群 (n=42)	訪問看護病院群 (n=76)
平均滞在時間(分)(SD)	221.0 (130.5)	117.3 (85.8)
0~30分	11	0
30~60分	17	3
60~120分	26	6
120~180分	9	11
180~240分	8	8
240分以上	5	14

t=4.627**

(2)1回訪問あたりの訪問者の人数と職種

1回の訪問あたりの訪問スタッフの人数は、訪問看護ステーション群で1.0人、訪問看護病院群で1.49人と病院群で統計的に有意に多かった。職種の内訳では、訪問看護病院群でPSWが訪問している割合が高かった。

	訪問看護ステーション群 (n=42人,205回)	訪問看護病院群 (n=76人,236回)	検定
平均訪問スタッフ数	1.01 (0.1)	1.49 (0.5)	t=13.9***
全訪問回数	205回	236回	
うち、看護師訪問	196 (95.6%)	196 (83.1%)	$\chi^2=17.5***$
PSW訪問	1 (0.5%)	60 (25.4%)	$\chi^2=57.2***$
OT訪問	6 (2.9%)	12 (5.1%)	$\chi^2=1.3$

(3)訪問先

訪問先は、いずれの群においても自宅が多かったが、病院群ではその他の割合が多かった。その他の内訳はグループホームが多かった。

	訪問看護ステーション群 (n=42人,205回)	訪問看護病院群 (n=76人,236回)	検定
自宅	188 (91.7%)	205 (86.9%)	$\chi^2=2.65$
事業所	0	0	
病院	2 (1.0%)	0	$\chi^2=2.31$
入院中	4 (2.0%)	1 (0.4%)	$\chi^2=2.28$
地域	8 (3.9%)	2 (0.8%)	$\chi^2=4.6*$
その他	1 (0.5%)	12 (5.1%)	$\chi^2=8.1**$
うち、アパート	0	2 (0.8%)	
グループホーム	0	10 (4.2%)	
ヒアリング会場	1 (0.5%)	0	

(4) コンタクトした人

コンタクトした人は、いずれの群においても本人が多かった。家族とコンタクトしている訪問は、訪問看護ステーション群では12.7%、訪問看護病院群では18.2%であった。

	訪問看護ステーション群 (n=42人,205回)	訪問看護病院群 (n=76人,236回)	
本人	203(99.0%)	234(99.2%)	$\chi^2=0.02$
家族	26(12.7%)	43(18.2%)	$\chi^2=2.5$
外部支援スタッフ	1(0.5%)	1(0.4%)	$\chi^2=0.01$
その他	3(1.5%)	2(0.8%)	$\chi^2=0.37$

(5) キャンセルの状況

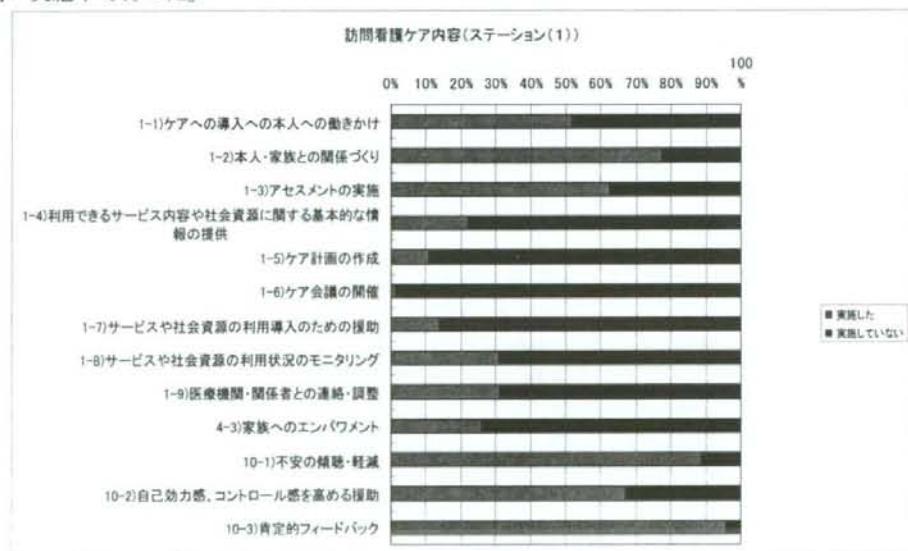
キャンセルの状況については、いずれの群においても数が少なかったが、キャンセルの場合に「ケア内容調査票」に記入していない可能性も考えられる。

	訪問看護ステーション群 (n=42人,205回)	訪問看護病院群 (n=76人,236回)
当日連絡により	0	2(0.8%)
訪問したが不在	1	2(0.8%)

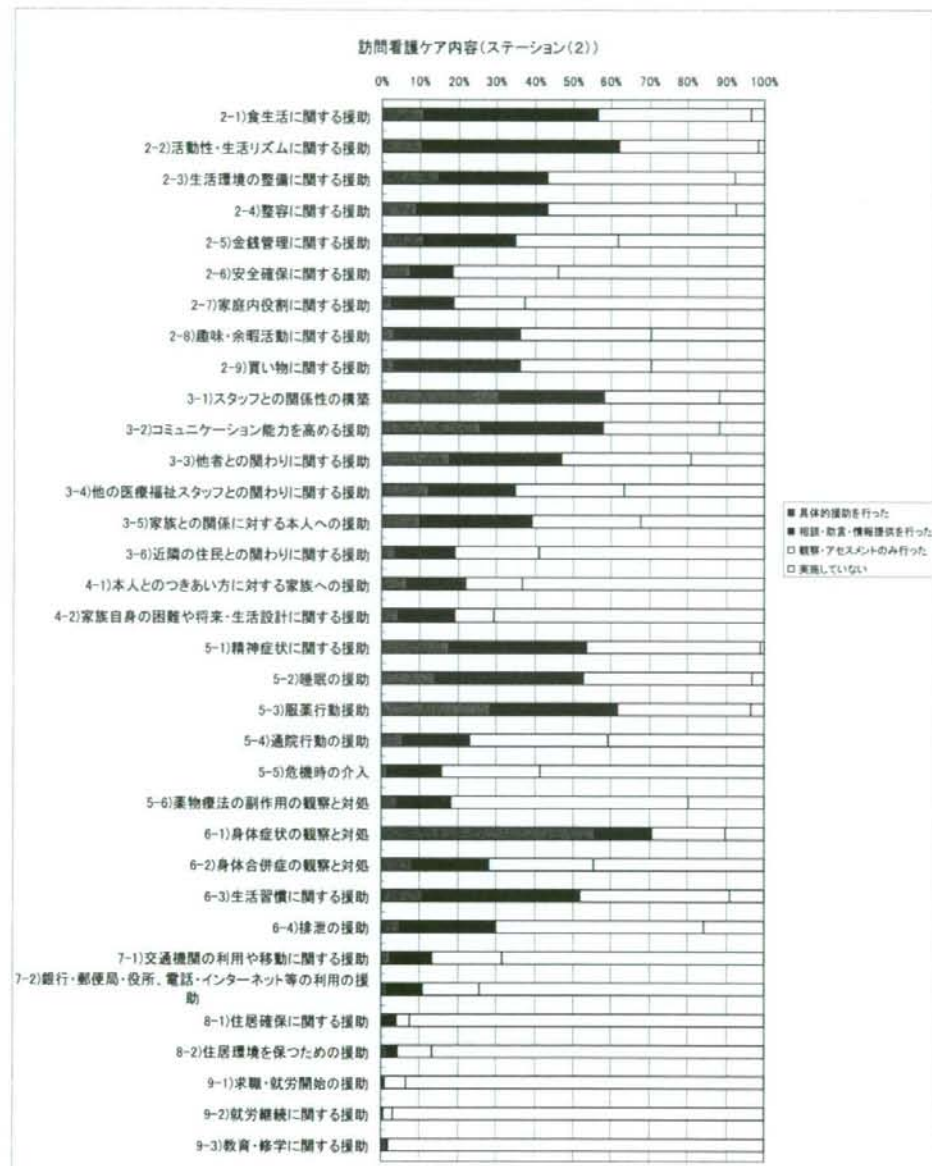
(6) 訪問看護ケア内容

(6)-1 訪問看護ステーションにおける訪問看護ケア内容

訪問看護ステーション利用者の1ヶ月間の訪問看護において、提供されたケア内容を以下に示す。ケアマネジメントに関する項目では、本人・家族との関係づくり、アセスメントの実施、ケア導入への本人への働きかけ、等の実施率が高く、ケア計画の作成、ケア会議の開催、社会資源の利用に関する援助の実施割合は低かった。実施率の低い項目は毎回の訪問で実施する内容ではなく、時期や状況に応じて提供されるケアであったため、実施率が低かったと考えられる。また、不安の傾聴、肯定的フィードバック等の対象者のエンパワメントに関するケアは、高い実施率であった。

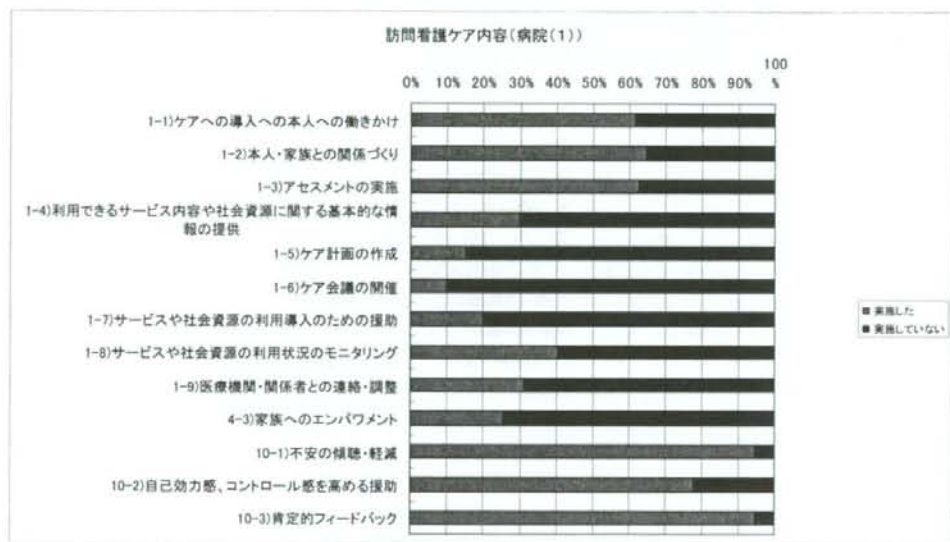


具体的援助の実施率が高かった項目は、身体症状の観察と対処、スタッフとの関係性の構築、服薬行動援助、などであった。相談・助言・情報提供の実施率が高かったのは、食生活や生活リズムに関する援助、精神症状、睡眠、生活習慣に関する援助であった。実施率が低かったのは、住居の確保や就労・教育に関する援助内容であった。

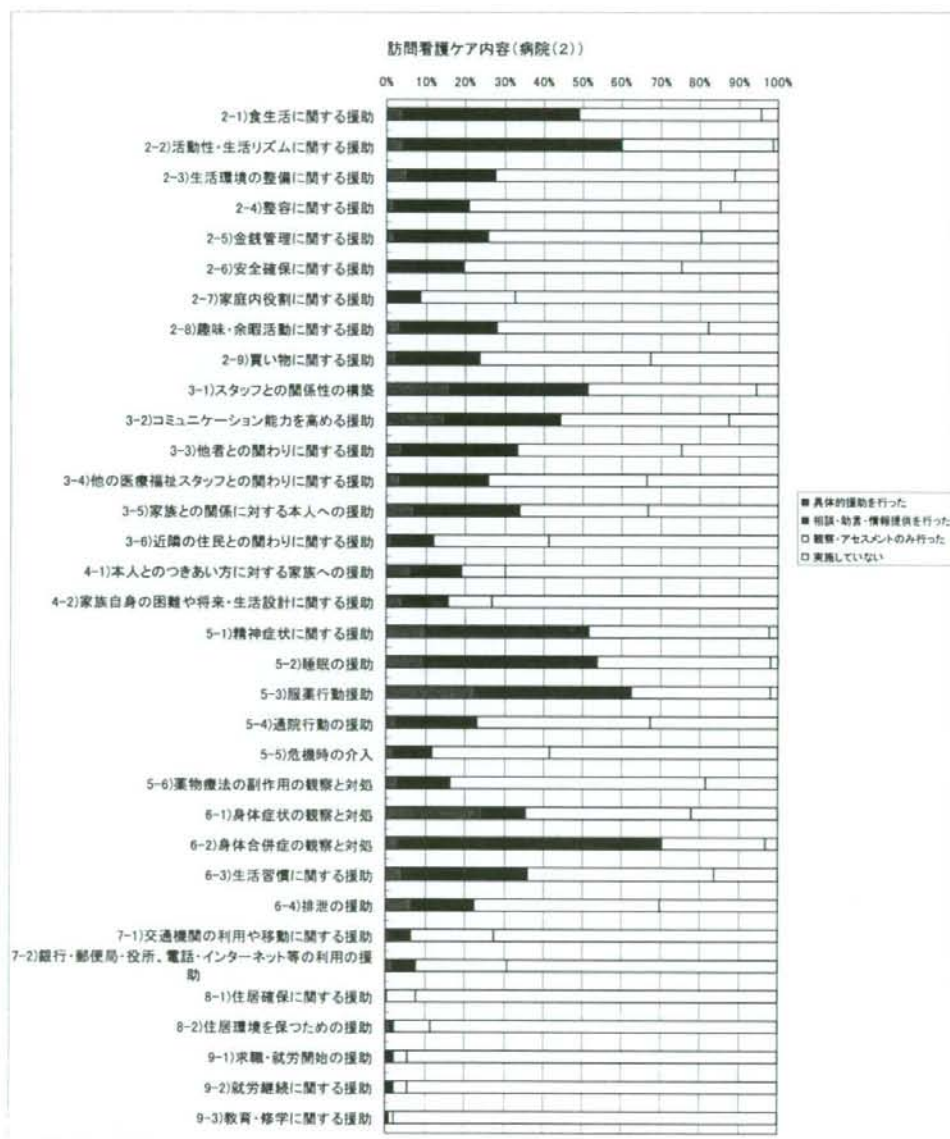


(6)-2 医療機関における訪問看護ケア内容

医療機関からの訪問看護利用者の1ヶ月間の訪問看護において、提供されたケア内容を以下に示す。ケアマネジメントに関する項目では、本人・家族との関係づくり、アセスメントの実施、ケア導入への本人への働きかけ、等の実施率が高く、ケア計画の作成、ケア会議の開催、社会資源の利用に関する援助の実施割合は低かった。実施率の低い項目は毎回の訪問で実施する内容ではなく、時期や状況に応じて提供されるケアであったため、実施率が低かったと考えられる。また、不安の傾聴、肯定的フィードバック等の対象者のエンパワメントに関するケアは、高い実施率であった。



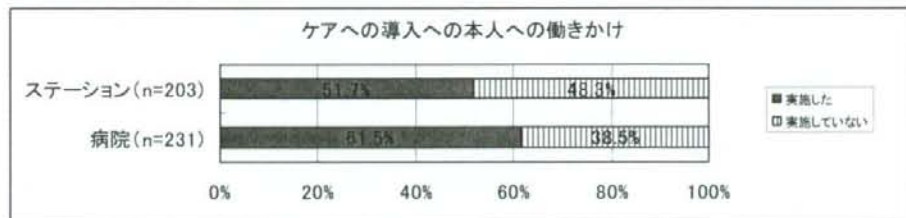
直接援助の実施率が高かったのは、身体症状の観察と対処、スタッフとの関係性の構築などであった。相談・助言・情報提供の実施率が高かったのは、食生活や生活リズムに関する援助、身体合併症の観察と対処、精神症状、睡眠、生活習慣に関する援助であった。住居の確保や就労・教育に関する援助内容は実施率が低かった。



各項目ごとに、訪問看護ステーションと病院のケア実施率を比較した結果を以下に示す。

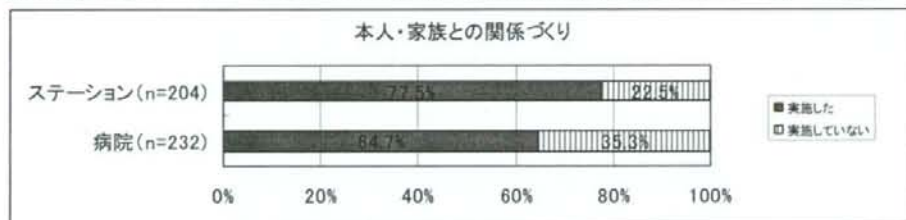
1-1) ケアへの導入への本人への働きかけ

“ケアへの導入への本人への働きかけ”は両群とも実施率が高かった。訪問看護ステーション群と病院群で比較すると、病院群の方が統計的に有意に多く実施していた ($\chi^2=4.187^*$)。



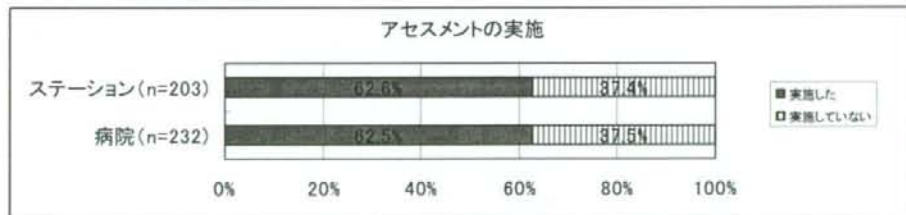
1-2) 本人家族との関係づくり

“本人家族との関係づくり”の実施率は両群共に高かった。訪問看護ステーション群と病院群で比較すると、ステーション群の方が統計的に有意に多く実施していた ($\chi^2=8.570^{**}$)。



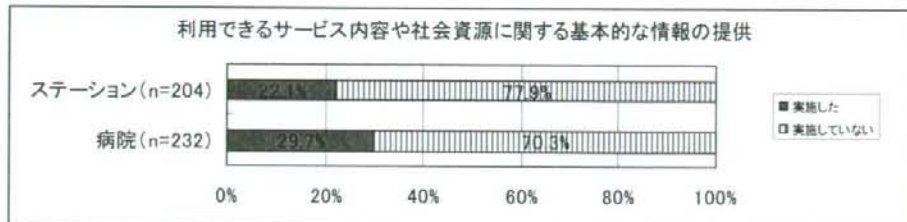
1-3) アセスメントの実施

“アセスメントの実施”は両群ともに実施率が高く、訪問看護ステーション群と病院群で統計的に有意な差はなかった。



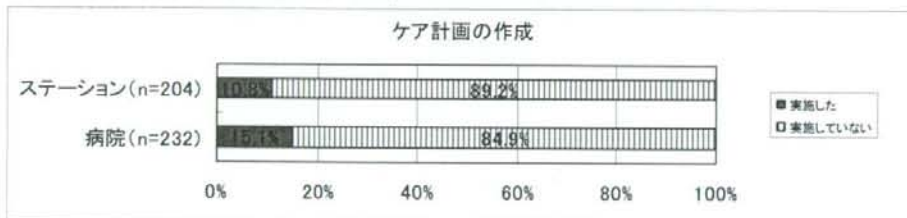
1-4) 利用できるサービス内容や社会資源に関する基本的な情報の提供

“利用できるサービス内容や社会資源に関する基本的な情報の提供”の実施率は、20-30%程度であった。利用者の状況や時期によって提供されるケアであり、毎回の実施率は低かった。訪問看護ステーション群と病院群で比較すると、両群間に統計的に有意差はなかったが、病院群の方が高い値であった。



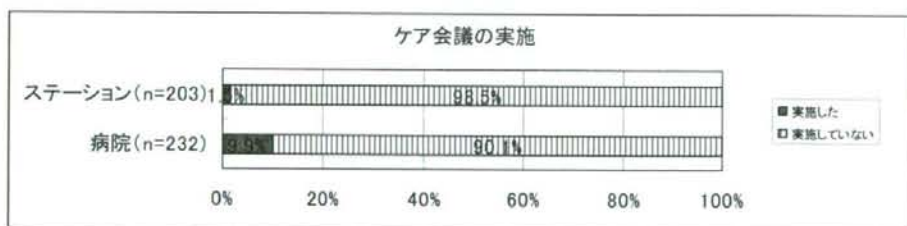
1-5) ケア計画の作成

“ケア計画の作成”は、10-15%程度の実施率であった。ケア計画の作成は定期的に行われるケアであり、毎回の実施率では低い値となった。訪問看護ステーション群と病院群で比較すると、両群間に統計的に有意差はなかった。



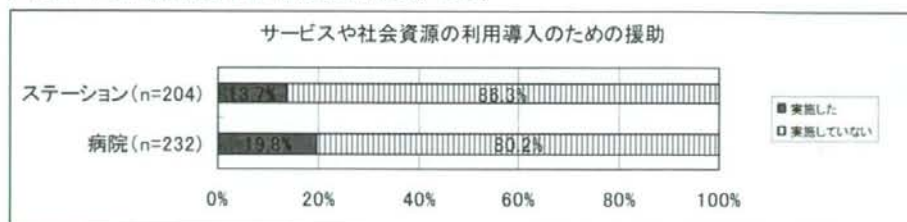
1-6) ケア会議の実施

“ケア会議の実施”は、定期的に行われるケアであるため、毎回の実施率は低かった。訪問看護ステーション群と病院群で比較すると、病院群の方が統計的に有意に多く実施していた ($\chi^2 = 13.710^{***}$)。



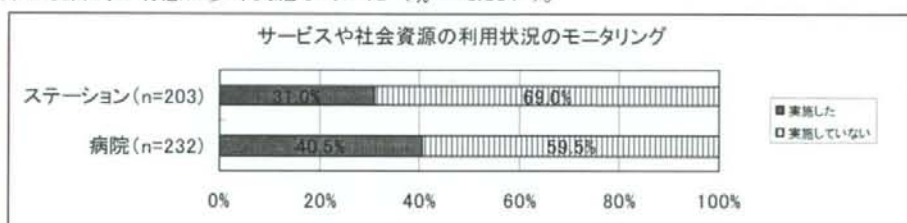
1-7) サービスや社会資源の利用導入のための援助

“サービスや社会資源の利用導入のための援助”を訪問看護ステーション群と病院群で比較すると、両群間に統計的に有意な差はなかった。



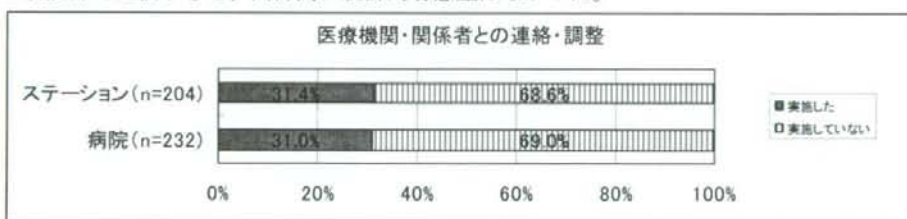
1-8) サービスや社会資源の利用状況のモニタリング

“サービスや社会資源の利用状況のモニタリング”は、他サービスを利用していない利用者もあり、30-40%の実施率であった。訪問看護ステーション群と病院群で比較すると、病院群の方が統計的に有意に多く実施していた ($\chi^2=4.187^*$)。



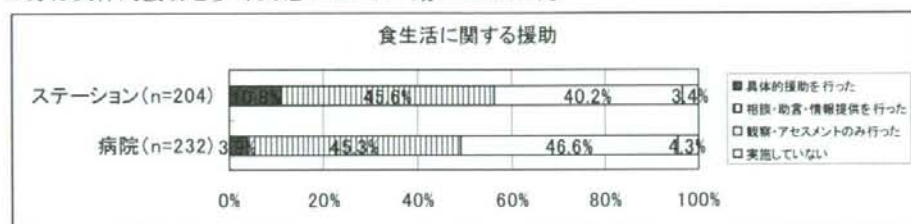
1-9) 医療機関・関係者との連絡・調整

“医療機関・関係者との連絡・調整”は約30%の実施率であった。訪問看護ステーション群と病院群で比較すると、両群間に統計的有意差はなかった。



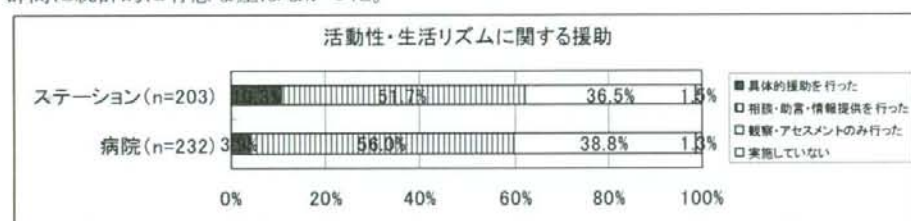
2-1) 食生活に関する援助

“食生活に関する援助”を訪問看護ステーション群と病院群で比較すると、ステーション群の方は具体的援助を多く実施していた ($\chi^2=8.503^*$)。



2-2) 活動性・生活リズムに関する援助

“活動性・生活リズムに関する援助”を訪問看護ステーション群と病院群で比較すると、両群間に統計的に有意な差はなかった。



2-3) 生活環境の整備に関する援助

“生活環境の整備に関する援助”を訪問看護ステーション群と病院群で比較すると、ステーション群は具体的援助を多く実施しており、病院群は観察・アセスメントを多く実施していた ($\chi^2=15.980^{**}$)。



2-4) 整容に関する援助

“整容に関する援助”を訪問看護ステーション群と病院群で比較すると、ステーション群は具体的援助を多く実施しており、病院群は観察・アセスメントを多く実施していた ($\chi^2=29.861^{***}$)。



2-5) 金銭管理に関する援助

“金銭管理に関する援助”を訪問看護ステーション群と病院群で比較すると、ステーション群は具体的援助を多く実施しており、病院群は観察・アセスメントを多く実施していた ($\chi^2=48.267^{***}$)。



2-6) 安全確保に関する援助

“安全確保に関する援助”を訪問看護ステーション群と病院群で比較すると、ステーション群は具体的援助を多く実施しており、病院群は相談・助言・情報提供や観察・アセスメントを多く実施していた ($\chi^2=63.457^{***}$)。



2-7) 家庭内役割に関する援助

“家庭内役割に関する援助”を訪問看護ステーション群と病院群で比較すると、ステーション群は具体的援助を多く実施しており、病院群は観察・アセスメントを多く実施していた ($\chi^2=12.730^{**}$)。



2-8) 趣味・余暇活動に関する援助

“趣味・余暇活動に関する援助”を訪問看護ステーション群と病院群で比較すると、ステーション群は相談・助言・情報提供を多く実施しており、病院群は観察・アセスメントを多く実施していた ($\chi^2=18.450^{**}$)。



2-9) 買い物に関する援助

“買い物に関する援助”を訪問看護ステーション群と病院群で比較すると、ステーション群は相談・助言・情報提供を多く実施しており、病院群は観察・アセスメントを多く実施していた ($\chi^2=38.761^{***}$)。

